

ナフサ不足懸念で 省資源包装に注目

北四国グラビア印刷^(観音寺)提案

への対応策として関心を集めている。

注目されている商品の一つが「スリムるフィルム」だ。通常の包装材は鮮やかな発色を実現するため、裏面に白インキを印刷する必要がある。同製品は乳白色フィルムを貼り合わせる独自構造を採用し、白インキを使わずに発色を確保。インキや溶剤の使用量を抑え、従来素材と比べてプラスチック使用量も約20%削減できるという。

乳白フィルムは一時、生産が停止となっていたが、同社がフィルムメーカーと連携して供給再開に取り組み、昨年10月から再び使用できるようになった。こうした動きと資源供給への不安が重なり、同社が出展した展示会では50件を超える新規問い合わせが寄せられた。

同社は包装形状の見直し

にも取り組む。1枚のフィルムを折り込んで成形する「ワンピースパウチ」は、従来必要だった接合部の調整部分を減らすことで、原紙使用量の削減につながる技術。資源使用量の抑制とコスト低減の両立を目指している。

奥田拓己社長は「資源を使う業界だからこそ、環境負担を減らす提案を続けていきたい」と話す。

中東情勢に伴うナフサ不足への懸念が広がる中、食品などのパッケージ印刷を手がける北四国グラビア印刷(観音寺市)が提案する省資源型の包装資材への引き合いが強まっている。インキやプラスチックの使用量を削減できる製品で、食品メーカーなどからの問い合わせや商談が相次ぎ、資源価格高騰や環境負荷低減



スリムるフィルムのサンプル(下)と従来品のサンプル

KAGAWA